

循環器分野では高度な医療を提供 かかりつけ医として地域医療に携わる

田原律哉先生・田原達哉先生

田原内科医院

香川県高松市松縄町四一―五

田原内科医院は、高松市中心部の繁華街から少し外れた閑静な住宅街に建つ。落ち着いた茶を基調とする三階建て。十九床の入院設備をもつ有床診療所だ。院長の田原律哉先生と、息子さんと副院長の達哉先生のお二人で診療に当たられている。

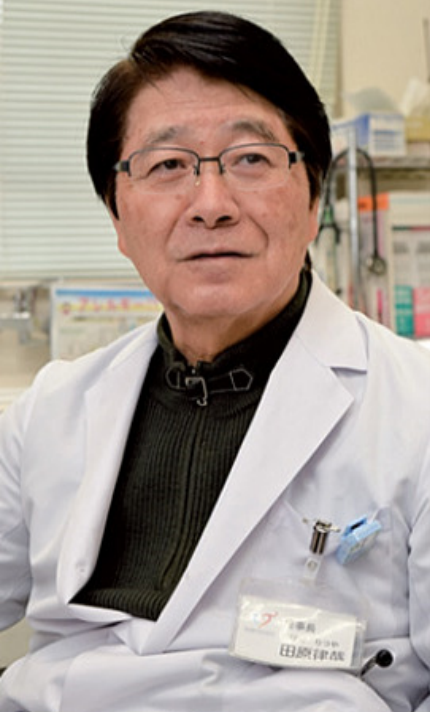
律哉院長は、昭和十八年のお生まれ。四十三年に岡山大学をご卒業後、岡山大学附属病院、高松赤十字病院でのご勤務を経て、五十五年、当地で開業されることになった。「家内の父も医師で、当時、定年退職を控えていたんです。それなら一緒に開業しようということに」。ご専門の循環器疾患を中心とした内科診療を、お義父様と始

められたのである。

達哉副院長は、昭和四十七年のお生まれ。高知医科大学を平成十年に卒業された。ご専門は、お父様と同じ循環器。岡山大学附属病院、岡山医療センター、心臓病センター、榊原病院、高松赤十字病院などのご勤務を経て、二十二年、当院副院長となられた。

それを機に、医院の新築をご計画。翌年、院内設備、医療機器等を一新した新館を開院された。

「今はほとんど息子のほうが主流。最新の検査手法を教えてもらっています」と、にこやかに話される律哉先生。最新の知識を携えて戻られたご息子に、大きな期待を寄



上:田原律哉先生
下:田原達哉先生



医院外観

せているご様子だ。

新しくなった田原内科医院の大きな特徴は、各種心電図検査や超音波検査等の循環器疾患の精査に特化した生理検査室、CT室と、新設されたりハビリ室であろう。

生理検査室では検査技師、超音波専門技師が各種心電図検査、心臓・血管・腹部超音波検査などを行う。CT室では64列マル



チスライスCTが導入され、冠動脈CTや3D・CTアンギオグラフィーにより、循環器疾患の診断精度を大幅に向上させた。放射線技師の矢野妙子さんも、新たに加わったスタッフのひとりである。

「専門病院並みの機器を導入して精密な検査をしている診療所は、県内では数少ないのではと思います。それだけ力を入れて循環器疾患の検査部門をお任せいただいているので、期待にお応えできるよう、私ももっと勉強しないと。患者さんの病変を早期に見出し、先生方により正確にお伝えできるようにになりたいと思います」と、意欲を見せられる。もう一つの特徴がリハビリ室。自転車やウォーキングマシンなど、一見、スポーツジムのような機器が並ぶ。

「リハビリというと整形外科や脳外科の治療を思い浮かべますが、最近は循環器の領域でもリハビリテーションが重視されるようになっていきます。心不全や虚血性心疾患



受付



広々とした待合室。第1～第3まで3つの診察室が並ぶ



19床(個室5室、2床室7室)ある一般病床

の症状改善や予防、予後の改善に効果があることが明らかになっており、動脈硬化の予防などにも効果があると言われています。県内の病院でもここ十年くらい、心臓リハビリを取り入れるところが増えていくんですよ」と達哉先生。ご自身も勤務先の病院でその効果を目の当たりにされ、導入を決意された。院長の律哉先生も、効果の大きさに驚いたと仰る。

「リハビリを実践した患者さんは、再発率はかなり低い。それに、精神面にも良い影響があるようです。心臓の病気をもつ、特に高齢の患者さんは、動くこと自体に躊躇してしまいがち。リハビリを行うことで「これだけ動けるんや」という自信にも繋がりが、気持ち明るくなるようです」

当院では、理学療法士の指導・監視のもと、患者が心電図モニターを装着して、心臓に負荷がかかりすぎない範囲で歩行や自転車運動、筋力トレーニングを行う。運動



上:生理検査室の検査技師・松本行弘さん、上原由紀子さん、植村文則さん(左から順に)
右:超音波検査装置、トレッドミル運動負荷心電図などがならぶ生理検査室



上:理学療法士の松家諒さんと高井紀子さん
右:リハビリ室。2名の理学療法士が指導に当たる。自転車運動を行うエルゴメータ、歩行からランニングまでが可能なトレッドミルなどを設置



内容や心拍数・血圧などは電子データで記録され、医師が経過観察を行うとともに、運動効果を評価し、患者一人ひとりに合わせたりハビリを進めていく。達哉先生が、「入院患者さんにとっては、入院臥床による筋力低下も重大な問題です。もとの疾患が改善しても足腰が弱って歩いて帰れない、という状態をリハビリを導入することでなんとかしたかったんです」と力を込められる。二人の若手の理学療法士が個別に行うリハビリが患者さんからも好評だそう。

「五年前私が戻ってきて、院長から診療について細かく教えてもらうという事はなして、引き続き幅広い診療に当たる。これを支えるスタッフは、外来、入院と多くの患者さんに昼夜対応する看護師十六名と、事務員十二名を中心とした、四十三名。また、院長夫人と副院長夫人も総務を担当されている。」

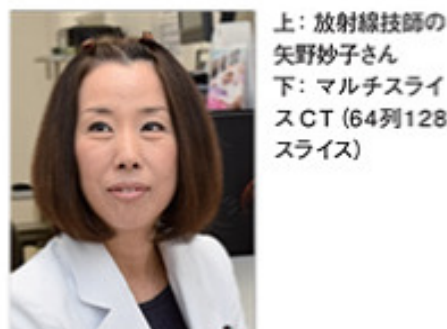
「患者さんに安全で安心な医療を提供できるように、スタッフも気持ちよく仕事できる環境を作ればと思います」と、副院長夫人の博美さん。家族で地域医療に携わる姿勢は、ご開業当初から変わらない。

「循環器科の専門性を、より高めた田原内科医院。もちろん、地域のかかりつけ医と二人の若手の理学療法士が個別に行うリハビリが患者さんからも好評だそうだ。」

「患者さんに安全で安心な医療を提供できるように、スタッフも気持ちよく仕事できる環境を作ればと思います」と、副院長夫人の博美さん。家族で地域医療に携わる姿勢は、ご開業当初から変わらない。

「五年前私が戻ってきて、院長から診療について細かく教えてもらうという事はなして、引き続き幅広い診療に当たる。これを支えるスタッフは、外来、入院と多くの患者さんに昼夜対応する看護師十六名と、事務員十二名を中心とした、四十三名。また、院長夫人と副院長夫人も総務を担当されている。」

「患者さんに安全で安心な医療を提供できるように、スタッフも気持ちよく仕事できる環境を作ればと思います」と、副院長夫人の博美さん。家族で地域医療に携わる姿勢は、ご開業当初から変わらない。



上:放射線技師の矢野妙子さん
下:マルチスライスCT(64列128スライス)

